

クルーズターミナル等の整備を契機として  
ワークショップによる合意形成によりハンプ等を設置



提供:那覇市

広域図



背景の地図の出典:国土地理院

整備計画等 策定状況	ゾーン 30 プラス
対策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 交差点部ハンプ(スムーズ横断歩道) 1箇所</li> <li>➢ シケイン(スラローム型)1箇所 ほか</li> </ul>
地区の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2011年の「うみそらトンネル」開通や「那覇クルーズターミナル」の整備以降、抜け道利用の増加や車両の走行速度超過等が課題</li> </ul>

## まえがき

若狭小学校地区は、那覇市立若狭小学校や公民館・図書館・公園等があり、以前から生活道路の交通安全対策を実施していました。しかし、2011年に那覇空港につながる「那覇うみそらトンネル」や大型客船が寄港できる「那覇クルーズターミナル」が整備されたことにより、周辺道路が渋滞するようになったため、この地区を抜け道利用する車両の増加や車両の走行速度の超過等が見られました。このため、2012年に若狭二丁目・三丁目をゾーン30として指定しましたが、依然として抜け道利用や車両の走行速度の超過等が見られるとともに、渋滞が起こる時間と通勤・通学の時間が重なることから、歩行者に対する早期の安全確保が必要でした。

そこで、すでにゾーン30に指定されていた若狭二丁目・三丁目と、対策の要望が出ていた若狭一丁目（2026年にゾーン30プラス整備予定）を合わせて若狭小学校地区とし、2020年に生活道路対策エリアとして登録を行いました。さらに、地区の対策として物理的デバイスの設置を行うため、住民、学校関係者等、沖縄総合事務局南部国道事務所、那覇市、那覇警察署でゾーン30プラスの整備計画策定に取り組みました。

この地区では、「若狭小学校区まちづくり協議会」という、子供たちとの地区の定例会をはじめとして、様々なテーマをもって活動をしている組織が以前からあったため、合意形成を図る素地ができていました。それを活かしつつ、交通安全に特化した議論を住民と行い、幅広い意見を取り入れたという市の思いから、合意形成手法としてワークショップ形式を採用しました。ワークショップは計3回開催し、「若狭小学校区まちづくり協議会」からは各回で約20名の住民が参加しました。

ワークショップでは、町丁目ごとのグループに分かれてディスカッションを行い、それぞれの町丁目内の危険な箇所や対策が必要と思われる箇所、対策内容について議論して、各グループで発表をしてもらいました。議論では交通安全に関係のない話も出ましたが、住民の生の声を聞く事ができました。

ワークショップに参加できない住民へは、ワークショップだよりを発行し、ポスティングにより配布することで、検討内容について周知を図りながら、参加者以外からの意見も募集しました。

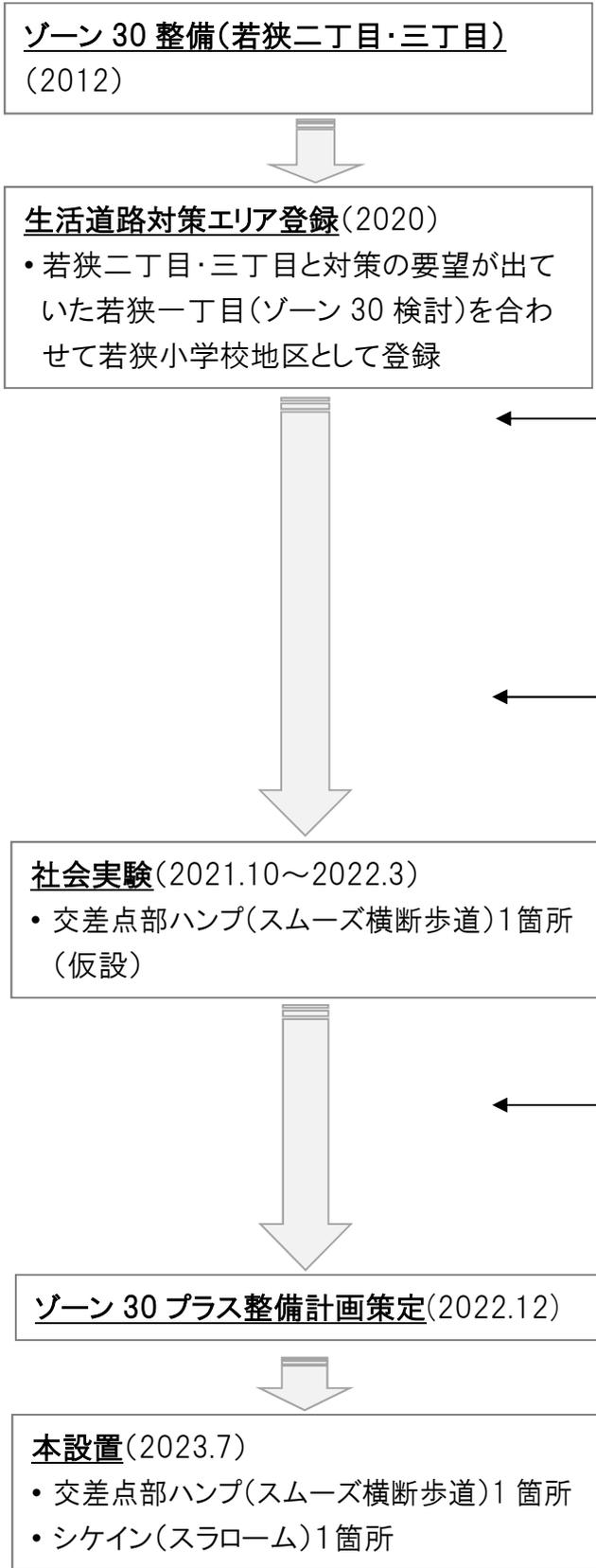
また、ワークショップで抽出された危険箇所について、現地調査を実施し、地区の交通状況を見てもらったことで、対策の必要性について理解を得ることができ、若狭公民館前での社会実験につなげることができました。

「子どもからお年寄りまで誰もが歩いて楽しい地域」を目標に、歩行空間の改善に向けて対策を検討・実施してきました。そのような那覇市のワークショップを活用した合意形成事例を紹介しします。

**設置に至るまでの経緯と合意形成の概要**

**設置に至るまでの経緯  
(道路管理者の動き)**

**合意形成の概要**



**2020.10 第 1 回ワークショップ**  
 ・危険箇所をグループディスカッションにより集約し発表  
 ・各グループからの危険箇所とETC2.0プローブ情報の重ね合わせ

2020.11 現地調査

**Point** ワークショップで意見があった危険箇所を、実際に参加者と現地で確認することで、実態を把握することができた

**2021.3 第 2 回ワークショップ**  
 ・生活道路の交通安全対策について  
 ・市道若狭 2 号における社会実験案について

2021.9 事前調査

2021.11 事後調査

**Point** 社会実験の効果を第 3 回ワークショップで速やかに報告するため、スピードガンによる調査を実施した

**2021.11 第 3 回ワークショップ**  
 ・交差点部ハンプの社会実験について  
 ・市道若狭 2 号の道路計画(案)について

**Point** 社会実験の効果を報告したことで、対策効果の実感や対策必要性の理解を得ることができた

## 物理的デバイスの概要(1/2)

### 設置内容

	内容	備考
設置箇所数	1 箇所	
設置時期	2023 年 7 月	
ハンプの形状	<b>【交差点部ハンプ (スムーズ横断歩道)】</b> ・ハンプの高さ 10cm ・傾斜部の勾配 平均 5%	・技術基準を参考
構造及び 付属施設	・アスファルト製ハンプ ・ボラード ・路面表示	・平坦部、傾斜部：ベンガラ ・横断歩道部：黒 ・ボラード：ブラウン

### 設置箇所



背景の地図の出典：国土地理院

設置状況(1/2)



概観



概観



すり付け部



ボラード



路面表示



路面表示

## 物理的デバイスの概要(2/2)

### 設置内容

	内容	備考
設置箇所数	1箇所	
設置時期	2023年7月	
シケインの形状	<b>【シケイン(スラローム型)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大ふり幅 50cm</li> <li>見通し幅 4m</li> <li>屈曲長 50m</li> <li>屈曲角度 約1.14°</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術基準を参考</li> <li>今後、区間延長予定</li> </ul>
構造及び 付属施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>路面表示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道の拡幅</li> <li>歩道幅員の広い箇所への植栽</li> <li>セミフラット型の歩道整備</li> </ul>

### 設置箇所



背景の地図の出典: 国土地理院

設置状況(2/2)



概観



概観



概観



概観



路面表示



規制標識

## 合意形成のプロセス

### ▶ 第1回ワークショップ（課題の抽出）

第1回ワークショップでは、住民を中心に地区の課題を共有するため、ETC2.0プローブ情報の分析による結果も活用しながら、グループディスカッションを行いました。グループは町丁目ごとに分かれることで、自分たちの住む町丁目内の意見を出してもらいました。付せんにヒヤリハット事例や交通問題を記入してもらい、若狭小学校周辺の地図に貼り付けて課題を可視化したものと、それに対する対策案を整理したものをういて、各グループで発表を行いました。それぞれのグループには自治会長や見守り活動をしている方などもいて、実際に見た現地のヒヤリハット事例を出してもらうことで、各グループで意見の取りまとめまで進めることができました。グループディスカッションの結果、市道若狭2号に交通量や速度超過の課題や問題点が集中していることが分かりました。

また、ディスカッションで抽出された意見と ETC2.0 プローブ情報の分析結果との照合も行いました。それにより、実際にこの地区が「うみそらトンネル」からの抜け道として利用されていることや、通学路で急ブレーキが多発しており、事故が発生していることなどが分かりました。

### ❖ 第1回ワークショップ

実施日：2020年10月21日  
参加者：若狭小学校区まちづくり協議会※1、那覇市スクールゾーン連絡協議会※2  
次第：  
・グループディスカッション  
・各班の意見を発表  
・各班からの危険箇所とプローブデータの照合

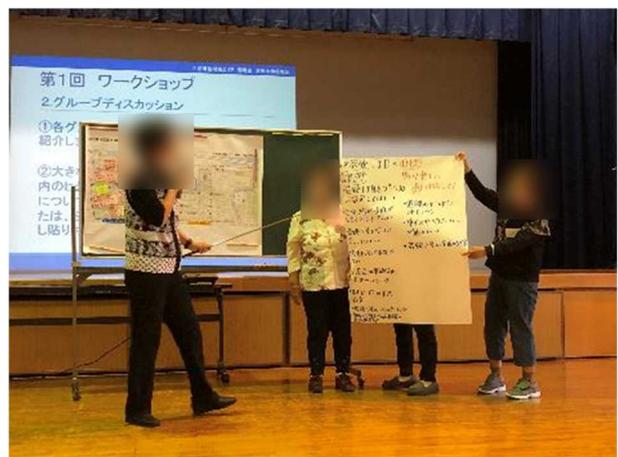
※1 若狭小学校区まちづくり協議会：若狭小学校区の自治会や民生委員、福祉機関等の団体

※2 那覇市スクールゾーン連絡協議会：沖縄総合事務局南部国道事務所、那覇市、那覇警察署



提供：那覇市

グループディスカッションの様子



提供：那覇市

各グループの発表



- ・グループは町丁目ごとに分かれることで、自分たちの住む町丁目内の意見を出しやすくなった
- ・地図に付せんに貼ることで、危険な箇所がどこに集中しているかを分かりやすくなった

▶ 現地調査

第1回ワークショップで意見が出た危険箇所について実際に現地を見ることで、危険な箇所の実態を確認しました。現地調査は、各町丁目から参加してもらい10名程度の参加となりました。現地では危険箇所をプロットした地図を配布し、ワークショップでの意見を確認しながら現地を回り、その際に追加の意見が出ることもありました。

❖ 現地調査

実施日：2020年11月2日  
参加者：若狭小学校区まちづくり協議会  
内容：・第1回ワークショップで抽出された危険箇所の確認



提供：那覇市

現地調査用の地図



提供：那覇市

現地調査の様子（若狭公民館前）



・第1回ワークショップの意見をまとめた地図を見ながら現地を歩くことで、危険箇所の実態を確認することができた

▶ **第2回ワークショップ（対策案の具体化）**

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップや現地調査で出た意見や課題に対し、具体的に対策を検討しました。グループディスカッションでは、車両の走行速度の抑制対策や歩道の改良等に対して市が考える対策案を示した上で、設置する箇所やどの対策がよいか各グループで議論してもらいました。議論では、市の想定とは異なる箇所への意見も出ましたが、それは住民の意見として受け止め、別途整備を進めることとしました。議論の結果、第1回ワークショップ等での意見を踏まえて、交通安全対策とその整備方法について概ね了承を得ました。

社会実験の実施箇所は、通過交通が多かった若狭公民館前と若狭小学校の正門側の2箇所となりました。その上で、住民から「公民館前の横断歩道を渡りやすくしてほしい」という意見があったこと、「登下校だけではなく公民館・図書館への児童の出入りも多い」という現状から、公民館前の交差点部にハンプを設置することが決まりました。

❖ **第2回ワークショップ**

実施日	2021年3月19日
参加者	若狭小学校区まちづくり協議会、スクールゾーン連絡協議会、シーパラダイス共同企業体
次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路の交通安全対策について</li> <li>若狭2号における社会実験案について</li> <li>グループディスカッション</li> <li>各班の意見を発表と実証実験箇所を決定する</li> </ul>



提供：那覇市

**グループディスカッションの様子**



提供：那覇市

**グループディスカッションの結果**



- ・対策案は市が事前に検討し提示したことで、議論を進めやすかった
- ・想定とは異なる意見も出たが、住民の意見として受け止め、別途検討を進めた

## 社会実験の実施

第1回、第2回ワークショップにて問題が集中していると分かった市道若狭2号の若狭公民館前にある交差点を対象とし、社会実験として「交差点部ハンプ」を設置することにしました。

社会実験前には、設置する交差点付近の沿道住民へ事前説明を行い、車両の出入りに支障がないかの確認や、騒音・振動について説明しました。騒音・振動については、技術基準を参照して整備された浦添市の単路部ハンプ(スムーズ横断歩道)の事例紹介の中で、騒音・振動に関して問題がなかったことを説明することで理解を得ました。社会実験時も、特に騒音・振動に関する苦情はありませんでした。

### 社会実験スケジュール

設置期間：2021年10月21日～2022年3月下旬  
実施箇所：若狭公民館前



### 社会実験中（若狭公民館前）

提供：那覇市

出典：国土交通省 HP-生活道路の交通安全対策ポータル-施策紹介  
スムーズ横断歩道の試行設置  
(<https://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/sesaku/pdf-zone30/43.pdf>)



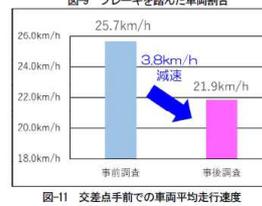
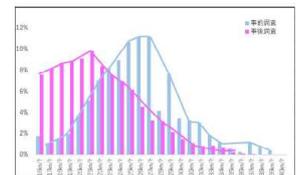
- 沿道住民へは個別に車両の出入りの確認や、騒音・振動について説明した
- 浦添市の単路部ハンプ(スムーズ横断歩道)の事例紹介の中で、騒音・振動に関して問題がなかったことを説明することで理解を得た

▶ **社会実験の効果分析**

社会実験中は、実験の効果を検証するため、実施前3日間、実施中3日間のビデオ観測とスピードガンによる車両の走行速度の調査を実施しました。効果検証結果については、第3回ワークショップで説明する予定としており、日程が限られていたため、ワークショップでの説明に向けスピードガンの調査結果を速やかに分析しました。スピードガン計測では、交差点手前でブレーキを踏んだ車両台数の割合、交差点を通過する車両の交差点手前で走行速度、交差点手前で30km/hを超過して走行する車両台数の割合を集計しました。その結果、可搬型ゴム製ハンブの設置により、ハンブ手前で減速する(ブレーキを踏む)車両が増加し、危険とされる30km/h以上で走行する車両が減少したことが確認できました。

❖ **調査内容**

調査項目	調査方法	調査期間
ブレーキを踏んだ車両割合	ビデオ観測・ 現地スピードガン計測	実施前・実施後(各3日)
区間走行速度		
30km/h 超過車両割合		



**社会実験時の調査状況**

**効果検証結果**

提供: 那覇市

出典: 令和4年度 沖縄ブロック国土交通研究会  
「ゾーン30+による対策の試験的な実施における効果検証について」  
([https://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/kengyo/kokudo\\_kenkyukai/2022\\_0727\\_sougou/pdf/ronbun\(R4\)/15\\_nankoku\\_nakamine.pdf](https://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/kengyo/kokudo_kenkyukai/2022_0727_sougou/pdf/ronbun(R4)/15_nankoku_nakamine.pdf))

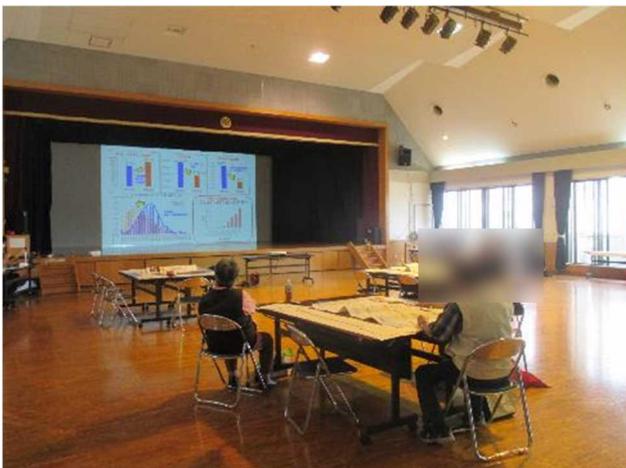
### ▶ 第3回ワークショップ（本設置の決定）

市道若狭2号の交通安全対策を決定するため、第3回ワークショップを開催しました。まずは前回までのワークショップを振り返り、若狭公民館前の交差点でのハンプの社会実験について、効果検証の結果を報告した上で、住民が実際どう感じたか意見交換を行いました。また、第2回ワークショップの議論の結果を踏まえ、市が再検討した対策案についてグループディスカッションを行い、その他必要な対策について検討しました。その結果、社会実験で車両の走行速度抑制に一定の効果が見られたことから、当初の計画どおり若狭公民館前に交差点部ハンプを設置することとしました。歩道のシケイン構造への改良については、現在整備されているクランク型の箇所では路上駐車が多く見られるため、スラローム型を採用しました。

今後の市道若狭2号の整備については、社会実験やこれまでのワークショップで出た意見を踏まえて設計を行い、設計案について住民説明会で報告しました。

### ❖ 第3回ワークショップ

- |     |   |
|-----|---|
| 実施日 | 2021年11月22日   |
| 参加者 | 若狭小学校区まちづくり協議会、スクールゾーン連絡協議会   |
| 内容  | <ul style="list-style-type: none"><li>・交差点部ハンプの社会実験について</li><li>・市道若狭2号の道路計画（案）について</li><li>・グループディスカッション</li><li>・各班の意見を発表</li></ul> |



提供：那覇市

ワークショップでの説明の様子



提供：那覇市

グループごとの発表の様子



- ・社会実験のデータだけではなく、住民がどう感じたかを意見交換したことで、対策への理解が得られた
- ・住民から路上駐車を懸念する声あったため、スラローム型で整備することが決定した



## 担当者から一言

若狭小学校地区においては、日頃から児童の通学時間帯に横断歩道で見守り活動を行うなど、住民や学校関係者等の交通安全に対する意識が高い地区でした。そのため、交通安全対策の決定を目的に開催した警察や関係機関等とのワークショップに対し、住民も積極的に参加し、課題の抽出やハンブによる社会実験の取組みを行い、合意形成を図ることができました。

当時は新型コロナウイルス感染症がまん延しており、ワークショップ開催の人数制限や延期、個別説明での対応などの苦労もありましたが、協議内容や決定事項をまとめた「ワークショップだより」を発行し、住民へ情報共有を図ったことで、より取組みへの理解につながったと考えております。

この事例を契機に、他地区へどのように拡大するかが課題ですが、引き続き通学路となっている生活道路等の交通安全対策を推進していきたいと考えています。

## おわりに

那覇市では、住民からの意見を聞き出すことが重要と考えワークショップを選択しました。ワークショップでは、行政だけが主導するのではなく、住民から地区の課題をたくさん出してもらい「どのような地区にしたいか」といったことを各グループで議論したことが、円滑な合意形成につながったのだと思います。グループディスカッションでは、地図に付せんを貼る方法を取り入れるといった工夫も見られ、参加した住民も議論を進めやすかったのではないかと思います。町丁目単位でグループを分けたことも、地区全体で様々な課題があることを住民が共有できるきっかけになったと思います。また、議論だけではなく、現地を確認したことも、対策が必要だという認識を高めることができた一因だったのではないのでしょうか。

ワークショップでは、市が想定していなかった議論や意見・要望が出たようですが、柔軟に対応し意見を取り入れたことで、住民からの信頼も得ることにつながったと思います。ワークショップでは、参加者の意見をまとめることが難しいと思いますが、市が意見を取り入れた対策を提案したことも、合意形成につながった大きな要因だったのではないのでしょうか。